

ピコピコ 通信

佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議

昔の暮らしをふりかえろう

みなさんはどのような子ども時代を過ごしましたか？年代によって思い浮かべる身の回りの風景やライフスタイルは少しずつ違うのではないのでしょうか。工業化の進む近代以前の暮らしは、野山の恵みがなくては成り立たない程、自然と生活が密接に関わっていました。そこで、昔から現在までの生活様式の変化をたどることで、どのように自然環境・生活環境が変化し、何が変化をもたらしたのかを、ふりかえてみましょう。生活の環境に及ぼす影響が、昔に比べて直接見えにくい現代で、これから自然・地球とどう付き合えば暮らしていけるのかを、昔の様々な生活の工夫を掘り起こし、未来に向けてできることを考えてみました。

自然と生活環境の今昔 温故知新 昔の暮らしからヒントをもらおう

～失われたもの、取り戻すべきもの～

江戸以前

炭焼き・柴刈り

山は生活に必要な燃料供給の場。農業の傍ら木こりや炭焼きをして燃料を作り、山の手入れは日常でした。※柴刈りとは、燃料となる小枝などの柴を刈る事です。

井戸・川の利用

きれいな湧き水は飲用に、川の水は食器洗いや洗濯などに利用し、洗剤の代わりに、枡の実やムクロジを使用しました。井戸も川も生活に欠かせない自然の恵みで、水を汚すと生活に影響がありました。

近代

人工林

戦後の住宅供給等による需要の増加や燃料革命のため、「拡大造林」として、杉等が全国で植林されました。

放置林の増加

人工林の木材利用が減り、手入れされない山が増え、土砂崩れなどの災害が心配されています。保水の役割の他、CO₂の吸収源としても、森林の保全はこれから益々必要となっています。

現代

草葺き屋根の家

地域の自然を利用した草葺き屋根。佐賀ではヨシが多く使われています。断熱性に優れ、古くなったら畑にすき込み、循環資源として利用しました。

肥だめの利用

人家から出るし尿を肥だめで発酵させたものが、作物を育てる肥料として重宝されていました。近代に化学肥料が登場すると、し尿は廃棄物になりました。

上下水道の整備

上水道・下水道の普及により、公衆衛生が向上し、病気等が減少し、快適な生活になりました。



©私の森.jp 写真部

かまど・囲炉裏・火鉢・灯り

家庭のエネルギーは身の回りの自然。里山から街へ運ばれました。燃えかすの灰も肥料や洗剤の代わりに利用しました。照明には菜種や魚の油の行灯の他、ろうそくを用いました。



保存食・生活用品

電気の無い時代、漬物や干物など様々な工夫で食品を保存しました。ほうきや桶など、生活道具は自然の材料から作られ、着古した衣類もおむつや雑巾に、最後まで大事に使用しました。

地域の商店

街の様々な商店では野菜や魚などの量り売り、パックに入っていない豆腐などが買え、飲料の瓶の回収もありました。卵はおが屑の箱から出して新聞紙で包んでいたそうです。

快適・便利な現代生活

ドラッグストア等では洗剤や除草剤など、快適に暮らすための様々な便利なものが誰でも手軽に買えるようになりました。冷凍食品も充実、様々な家電が人手の代わりに助けてくれます。

どうする？ ゴミ
& エネルギー

For our future 未来にむけてできること

木質バイオマスの利用

薪や炭、小枝などを現代では「木質バイオマス」と言います。木は燃焼でCO₂を排出しますが、そのCO₂は成長の際に吸収されたものであるため、化石燃料の使用よりもCO₂排出を抑制できます。

廃棄物の循環利用

昔の肥だめと違い、生分解により悪臭の少ないコンポストトイレは水を使わず使用後は堆肥にできるため災害時にも利用できます。生ゴミや汚泥を処理する施設でのバイオマス発電も注目です！

環境負荷の少ない生活

小規模商店が主流の時代には当たり前だった量り売りや瓶の回収は今では難しい為、ゴミの分別や包装の少ない買い物に心がけましょう。他に、ソーパナッツなど環境にやさしい洗剤を選びましょう。

快適な住環境

草葺き屋根や土壁は調湿や断熱に優れ、地域で生産・再利用されました。現代でも高断熱・リサイクル建材や、太陽熱の利用などで省エネをする他、地域の木材の利用を促進しましょう。



和ろうそくづくり

佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議活動紹介

「中原の自然を守る会」に在籍のサポーターによる“ハゼろう”作り体験の講座を、毎年開催しています。ハゼの木の種類や、佐賀藩の財政を支えたといわれる和ろうそくの歴史・使われ方などを学習します。

熱々の木ろうそくを和紙に巻いた棒にかけ、固まったろうそくに火を灯すと、普通のろうそくより炎の大きさもゆらぎも大きく、幻想的な雰囲気を感じられます。ハゼは西日本独特の樹種で、油煙が出にくく安全なので、現在も需要があります。地域の自然から作られる特産品がある事をこれからも伝え、残していきたいですね。



こどものあそびガイド

昔のこどもたちは、屋外が主なあそび場で、季節ごとの遊びがありました。異年齢で集い、年長者が年少者へその地域のルールを教えました。危険な場所も子ども同士で情報を共有し、

自然を相手に遊びました。車も少なく、空地などの遊び場も沢山あり、スポーツも“遊び”として自由に楽しみました。時に木の実などのおやつも調達でき、おもちゃも自然の材料から自分たちで作りました。

今のこどもたちの遊びは何といってもゲームです。ゲームの中をのぞいて見るとたくさんの冒険があるようで、こどもたちの好きなことの本質は変わらないよう思えます。でも実際は、職場と住居が離れ、大人の目が身近になく、車と大きな道路が増え、空地は駐車場になり、スポーツはクラブで競技として取り組んでいます。もっと自由に、そして自然と親しめる体験ができるよう、大人たちも環境づくりに協力していきたいですね。



環境サポーター派遣事業では、昔の自然素材のおもちゃを作る体験講座の他、自然体験、野あそびの講座もあるのでお気軽にお問合せください。

太陽熱温水器のススメ



昭和の懐かしアイテム？若い方にはなじみのない、古い家の屋根にのっている銀色の物体、太陽熱温水器。実は太陽光発電よりも熱変換の効率が良い他、導入も低コストで済み、既存の給湯器と接続できる機種も登場し、昔に比べて使い易くなりました。ガスや灯油での給湯のお宅であれば、環境にやさしい省エネ・節約に役立ちます。

#うらおい佐賀で投稿しよう♪

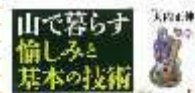


あなたの残したい、ふるさと佐賀の美しい風景をハッシュタグ #うらおい佐賀 をつけて、ツイッターやインスタグラムへ投稿しませんか？ お気に入りの空、いつもの帰り道、散歩道…歩くと面白いものが何か見つかるかも？ “歩こう。佐賀県。”
♥投稿して頂いた写真の中から、うらおい佐賀 HP で紹介させていただきます。



クレークなどに生えている“オニバス”は、絶滅危惧Ⅱ類種（佐賀ではⅠ類）です。「ストップ温暖化」事務局では県内の絶滅危惧種の植物をまとめた「レッドデータブックさが2010」を販売しています。お手元で是非ご活用ください。●販売価格：2,000円（送料・税込み）

Pick up おすすめ書籍紹介



山で暮らす愉しみと基本の技術
著者：大内 正伸
出版：農山漁村文化協会

📖おすすめポイント
憧れの田舎暮らし、いざ始めてみようと思っても、どうやって暮らしていくのか...という田舎暮らしの初心者から、ベテランの方の「これどうしたら良いかな？」まで様々な知恵が詰まった本です。中山間地域で暮らすために必要な技術の指南書としてお勧めの1冊です。



昔話にまなぶ環境
著者：石井 正己
出版：三弥井書店

📖おすすめポイント
「昔々おばあさんは川へ洗濯に...」この一文から、自然と暮らしが結びついてきた事が伺えます、という視点で文化的な側面より環境の変化や自然と人々の意識の結びつきを考えるフォーラムをまとめ、科学的なデータとは別の角度からの考察を試みた本です。